

毎日が、散歩の途中

### 夜更けのペチンペチン

文と絵 岡本杏子



杏

私がまだ学生で実家に暮らしていた頃のこと。夜、2階の部屋から降りてくると、奥の居間にだけ灯りがついていて、ペチン、ペチンと音がする。ああ、またやってくるなど思いながら近づくと、父はあぐら、母は正座で差し向かい。二人の間には座布団があつて、その上には花札が散らばっている。

私や兄がそれぞれ自分の部屋にこもって勝手気ままな夜を過ごすようになってから、両親はよくそんなふうにならなで遊んでいた。

父は会社勤めで帰宅は毎日遅かったから、その思いは出しておそらく週末で、洋画劇場でも見終わった後のことだろう。毎週末というほどではなかったが、幾度となく繰り返された懐かしい風景だ。

父が手札を出して場の札を取る時は、ペチンと小気味のいい音がする。この音がなく、は花札じゃないとばかりの

手つきで、わざと大きな音をたてる。母も負けじと、少し小さい音でペチンとつく。 「かぶった」とか、「こい！」とか言いながら、二人の対戦はなかなか白熱する。左の段はそれぞれの名前。上には数字が十から十まで書いてあって、下段のマス目に各回の得点を入れていく。

「まぜて」と私が言うと、「十四戦までやってから」と待たされることもよくあって、そんな時は得点係をやりながら、廊下からミカンを取ってきたり、お茶を入れたり、せせと働いた。

余談だけれど、最近裏の白い広告が減ったから、メモ書きに使うのはたいがいコピー用紙の裏だ。でも、思い出の中の得点表は確かに広告の裏紙で、しかもソルツルの光沢紙。そこにHBの鉛筆で書くもんだから字が薄くて見えづらい。はしょって絨毯の上

で書いたりするとプツリと穴が開いて、あくあとなる。 さて、七十五を過ぎた両親は揃って元気が、今でも花札で暇をつぶすことがあるのだろうか。

「仕事一筋」から「趣味の男」へと定年を機に見事な変貌を遂げた父は、合唱団、ハーモニカ、料理教室などで忙しい。祖母の介護を終えてから父の真逆を行く不精になった母は、パソコンのトレーニングから更に進化して、iPadのゲームアプリで遊ぶ。どうやら花札をやる暇はなさそうだ。でも、私にとって花札をする父と母の姿は、時折ふと思いついてしまう大事なワンシーンなのである。

岡本杏子(あかもと きょうこ) 神奈川県生まれ。世田谷区在住のライター。店舗・住宅・人物の取材執筆を得業とする。今までに経験した職は美容師や家庭教師、モデル、アルバイト正社員を含めて20を超える。ライター業に落ちつきは、15年。散髪と腕時計をよま愛する。一女の母。

### 特別寄稿

## 酒量

朝日新聞社 牧野愛博

5年ぶりに東京に戻り、仕事を始めた。新しい職場は国際報道部。元々、政治記者だった私に、ちゃんと務まるかどうか自信がない。せいぜい、仕事を落とさぬよう、ひたすら人に会うことから始めた。

中には、歓迎会を開いてくださる方もあり、昼と夜はほぼ1ヵ月分ぐらいい先まで予定が埋まった状態が続いている。

問題は美味しい日本の料理とお酒。取材の方も留守になりがちで、思い出したように、箸を止めて、話を聞くこともしばしばだ。

そこで戸惑っているのが酒量。もう私も40代後半。昔ほど、酒に強くない。どのくらい飲んだら、自分がどこまで酔うのか。取材の会食では、これを頭に入れながらやらないと、肝心な話を聞き忘れたり、聞いても忘れてしまったりする。

韓国の場合、他人に酒量を聞くときの目安は焼酎になる。分量は360ミリリットルで、アルコール度数は20%弱。「ところで、あなたの酒量は」と聞かれたら、「焼酎何本」と答えるわけだ。私の場合、

1本でほろ酔い気分になり、2本は焼酎でないと満足できない、と飲むと酩酊する。3本飲めないとはいないが、そこまでやるとひどい二日酔いになる。だから、大体1〜2本の間で止めるのがちょうど良い。もちろん、韓国では「一緒に酒を飲む」というのは、仲良くなるうえで非常に重要な手段だから、親しくなりたいときは覚悟して3本目の封を切った。

韓国の人に聞いてみると、やはり相当な酒豪で「4本」。普通は1本ないし、2本というのが普通だった。

韓国では、「とりあえずビール」という習慣もないし、酒を飲むから、ほぼ間違いなく焼酎だから、非常にわかりやすかった。

ソウルに赴任した当時は、この「希釈酒」と書いてある韓国焼酎の薬品のような味が嫌だったのだらう。そのうち慣れて、最後の方で

飲み助には楽しい世界だが、ソウルの時のように、「焼酎1本飲むまで、この話とこの話は、必ず聞いておこう」というわけにもいかない。気がつかないうちに酔っぱらう場面も出てきた。用心深く、「ちょっとお手洗いに」と中座したときに、聞いた話の要点をメモしたり、聞かなければいけない項目を確認したりはしているが、どうもペースがうまくつかめない。東京の生活になじむにはもうしばらくかかるとだ。

### 町ネタ

## 東西南北

### 日本の映画ホスター芸術

開催中(3月31日) 東京国立近代美術館フィルムセンター(京橋) 05777-8600 (ハローダイヤル) 一般200円

映画作品の宣伝メディアとして、劇場や街角に貼られてきた映画ポスター。日本の場合、その多くは製作・配給会社のコントロールのもとで匿名的に作られてきました。しかし歴史の糸をたどって見れば、その枠に収まらず、自立したグラフィック作品としての価値を主張するポスターを見つかることができます。モダニズム香る1930年代の松竹映画で活躍した名デザイナー河野鷹鬼や、ヨーロッパ映画の芳醇なポスターで二時代を築いた野口久光のほか、戦後には挿絵画家岩田幸太郎も日本映画ポスターに艶やかな女性美を刻むなど、映画の黄金期にはさまざまな才能が映画界と交差しました。また日本アート・シアター・ギルド(ATG)の登場した1960年代には、映画芸術の革新の動きに並走するかのよう若手デザイナーが起用され、さらに映画・美術・文学・演劇などのジャンルが密接に絡まり合う中で栗津潔・横尾忠則・和田誠といった新世代のアーティストが登場し、旧来の映画ポスターのスタイルを変容させます。展覧会「日本の映画ポスター芸術」は、とりわけ1960-70年代の作品に重きを置いた100点以上のポスターを通じて、映画とグラフィズムとの結節点を探ります。映画作品の情感を見事にすくい取ったものもあれば、「あの映画に、このポスター?」という驚きの一枚も見つかるでしょう。スクリーンの外側に花開いた映画芸術のもう一つの顔をお楽しみください。

### 春期講習&4月生募集

## 大学受験塾 秀門会

秀門会は、難関大学現役合格を目指す高校生対象の大学受験塾。オリジナルテキストを用い、最大8名までの少人数クラスで効果的な指導を行っている。入塾生の募集も同時進行。新高1・高2が対象で、科目は英語と数学。3日または4日間の集中講義で4月からの学習に必要な基礎を養う。

また、4月9日の週から始まる平常授業も同時募集。春期講習受講者は4月分授業料が無料の特典あり。

なお、新高3生については春期講習が始まる前までにお問い合わせを。秀門会の講習は、常に今の時期には何を



の最も効果的か」を慎重に検討して設定されている。平常授業でもそれは同じ。スパルタ授業や多量の宿題ではなく、体系的な講義と無理なく取り組める課題で生徒のやる気を促し、志望校合格へと導く。気軽にお問い合わせを!

お申し込み・お問合せ フリーダイヤル 0120-599-440

曜日	時間	電話	事務窓口
木曜	16:00~21:30	0120-599-440	16:00~21:30
火水金	17:30~21:30	03-3941-3147	17:30~19:00

http://www.shumonkai.com FAX: 03-3941-3147

## 駒込デンタルオフィス

フレッシュな春の到来に備えて、歯の身だしなみにご注意

医科・歯科のイノベーションは治療の基礎となる素材と接着剤の革新で、自然で快適な補修が可能となっている。

歯科治療の革新に、わずか1〜2年の間に、めざましい進化を遂げる。かつては高額な自由診療であった自由診療が、身近なメニューとして受診できるようになりました。自身の歯の健康を大目標に、歯を削ることをなく、むし歯の予防と効果があげられるように積極的に取り組んでいる。

例えば醜い金属の裏打ちのないセラミック単体による「かぶせ」もその一つ。

昨今、市販の薬剤でホワイトニングに取り組む例も目につくが、当院ではデュアルホワイトニングがおすす。専門医の指導の下、医院と自宅で取り組むホワイトニングで、最大2週間で見違える白さと健



駒込デンタルオフィス

〒163-0297 東京都豊島区駒込1-3-3

03-3941-3147

診療時間 平日9時~19時 (土日9時~17時)

・休診日 国民の祝日